

地域づくり活動の行動計画

北部医療センター

2025年度
地域緩和ケア連携調整員研修 ベーシックコース

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名 (職種)
京都府立医科大学附属北部医療センター 地域医療連携室	中島 麻矢 (看護師)
京都府立医科大学附属北部医療センター 看護部	中村 明美 (緩和ケア認定看護師)
京都府立医科大学附属北部医療センター 薬剤部	堀口 裕美 (薬剤師)
京都府立医科大学附属北部医療センター センター がん相談支援	坂根 直美 (看護師)

① 選定した地域の課題

顔の見える関係性は築けているが、お互いにフィードバックの仕組みがないなど、仕組みやルール作りが必要である。

- かかりつけ医へ転院となった場合フィードバックが取れていないことが多い。
- 外来スタッフ・病棟スタッフが外部の関係機関との連携を取る機会がない。病院スタッフが、地域医療として一人の患者を支えられていない。

② どんな地域を目指すのか

- 多職種連携による在宅医療
- 安心して在宅療養を受けられる地域



マイホームミクスにおける3本の矢



宮津・与謝地域では

①要介護状態の在宅医療・療養に対して 3本の矢で体系的に支援して本人の幸せ度を高い水準に保ちご家族の精神的・身体的負担を最小限にすること

②自宅での最期を望む方には 3本の矢の体系的支援により可能な限り在宅看取りを叶えることを目指しています

少しでも充実した体制に向けてご意見やご提案をお教えください



★このリーフレットに関するお問い合わせは与謝医師会 (0772-22-3525) まで 令和6年9月発行

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- 院内スタッフへの意識付け

院内スタッフが、地域医療の一員だという
認識を持てる取組み

- タイムリーな情報共有（看看連携など）
相談しやすい関係づくり



- フィードバック体制の構築

- 主治医や病棟看護師の
退院前訪問
（実際の生活環境を知る）

④具体的な行動計画

- ・連携シートの作成（フィードバック・情報共有を目的としたもの）
 - ・地域からのフィードバックをもとに病院全体で振り返りを行う。
-
- ・退院前訪問に行った病棟看護師からのフィードバックをもとに病棟カンファレンスで必要なサービス介入等を検討する。

⑤目標達成時期

連携シートの作成

1. 年度内に連携シート案を作成（丹後医療圏訪問看護連携シートを参考に作成）
2. 令和8年度前半に連携シートの完成
3. 令和8年度後半に地域への周知

退院前訪問後のフィードバック

1. 年度内に各病棟内カンファレンスで共有する
2. 共有後より、退院前訪問について今後関わる職員も含め多職種でフィードバックを行う。（地域医療の一員であることへの意識付けにも繋げる）